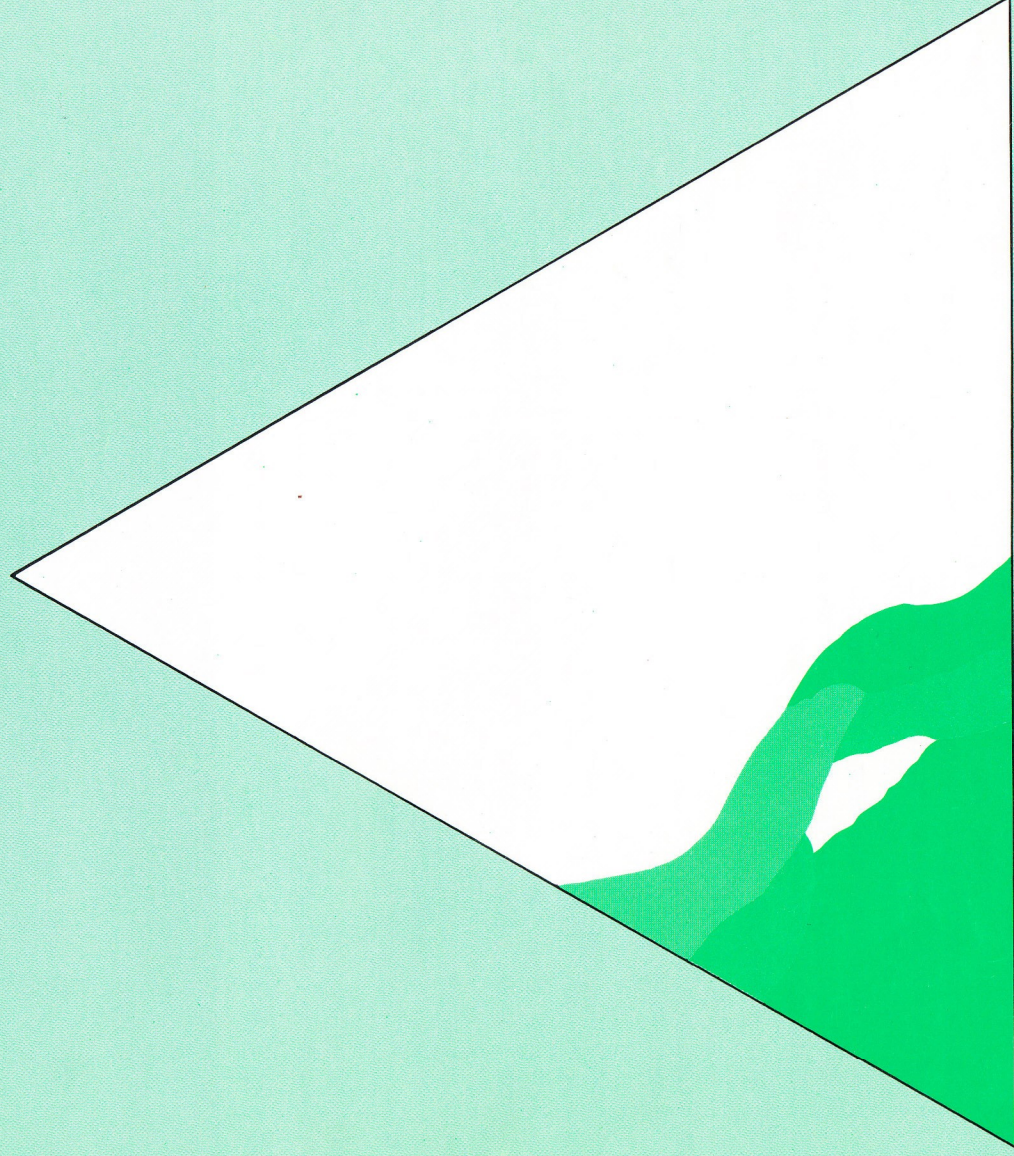


# 小田原男声合唱团

## 第14回定期演奏会



1985.7.13(土)18:30開演

小田原市民会館

# ODAWARA DANSEI GASSHŌDAN



## 皆様 ようこそおいで戴きありがとうございます

代表者 日下部 陽

小田原男声合唱団の定期演奏会は、今回で14回となりますが、お客様の中には、毎回を逃さずお聴き下さった方も多く、「オダワラの定演を聴くと、やっと夏が来た心地がする」という、嬉しい励ましを仰言る方もあって、一回は感謝と共に鋭意、練習への意欲を燃やしており、そしてまた今夜を迎えました。

お気づきのように、実は今夜の演奏会には常任指揮者の福永陽一郎氏はヨーロッパ演奏旅行のため不在です。一昨年夏に一時心配された氏の病氣も一応は回復されたことは喜ばしいことです。そういうわけで、止むなく今回は団の三名の副指揮者がはじめて本番のステージでも指揮棒をとることになりました。平素はむしろ福永氏のアシスタントとして陸の役目を担ってきた彼等ですが、私達団員一同は、これがまた団の評価をする上で重要な体験であろうと考え、心を合わせて参りました。言ってみれば、ユニフォームを着用して、練習風景をお聴かせするとも申せます。と言うのは、私達の目下の標語は「練習こそ本番だ」と言うもので、これを5年間合い言葉としてきました。その標語そのままに皆様と出会う機会を、私達は大切にしたいと思えます。しかし、やはり本番は本番で、練習のようにやり直しは許されません。真剣勝負といった大上段でないにせよ、レベルの高い本番であることはまちがひありません。そうしたことをご諒察戴きまして、皆様のご高評を得、それを厳しく受けとめたいと存じ、皆様のご感想がたくさん戴けるよう念じております。

今夜の4ステージは総じてみますと、幻想とノスタルジアに買われているかと思えます。心の中に、ある時は閃めき、あるときは淀む、そして人間を明るくもさせ、暗くもさせる幻想とノスタルジア……。それらを男の声でうまく表現できれば嬉しい次第です。どうぞ終りまでお楽しみ下さいように。

## ごあいさつ

われながら困惑してしまつたのですが、創立以来、一度も欠かさず指揮してきた小田原男声合唱団の定期演奏会を、今年にカギつて、指揮できないことになってしまいました。市民会館の使用契約は当日の一年前に結ばれる規則になっております。つまり、この演奏会の日程は去年から決まっていたわけで、私のスケジュールの調整も、当然済ませてあつたのですから、私が一方的に約束を破つたこととなります。当の相手である小田原男声合唱団に対していざばん大きく謝罪しなければなりません。私の指揮する音楽を楽しみにして下さった方が少しでもおいででしたら、本当に申しわけない事です。常任指揮者が病氣でもないのに定期演奏会の指揮をしないという事実には、弁解の余地はありませんが、事情の説明をさせて戴くとすれば、私が連続的に指揮をしてきた大学ブリーフラブのうち二つが、以前から私が強く参加することを薦めてきた〈ヨローツパ・カンタット〉への参加とヨローツパ演奏旅行を実現することになり、その日程が小田原男声の演奏会の予定日に重なつてしまつたのです。小田原男声のほうで先約だつたので、板挟みに進退に困難してしまいました。さいわい、小田原男声には、団の副指揮者として、ほかでは立派に優秀団体の指揮者をお続けおられるベテランが一人二人ならず在籍されています。個人的には予定外の負担が増えて申しわけない事ですが、私の不在をカバーするために、定期演奏会での指揮を引き受けて下さいました。これで今年の小田原男声はいつも「福永音楽」というマンネリズムから脱却した新鮮なステージとして定期演奏会を開催できるわけです。身勝手な言い分ですが、私の不在という災を転じて福となす……という結論が出ますように、遠くヨローツパの地から祈っております。柏木、大塚、松本の三先生と団員諸氏の熱意ある協力から、例年ごありの、いや例年を超えたコンサートになっていることを信じています。

御来聴のみならずには、また近いうちにお目に掛かりたいと思っております。

東京音楽学校（現東京芸術大学）本科ピアノノ科出身。1956年より藤原歌劇団常任指揮者として、又同団の第3次速米公演を指揮。イタリヤオオベラ来日公演では副指揮者として参加、歌劇指揮者として広くその名を知られた。近年、藤沢市文化参与として地元アマチュア音楽家を結集して市民オペラを実現。アマチュア音楽の育成にかける情熱は他に比すべきものがない。

小田原男は創立以来変わることなく、その棒の下に歌い続けている。

# プログラム

## 1. 「シチューベルト 男声合唱曲」

指揮：松本和夫  
独唱：松本敦子  
ピアノ：小沢一

- I 夜
- II 墓と月
- III ゴンドラを漕ぐ人
- III 小夜曲

## 2. フランスの詩による男声合唱曲集 「月下の一群」

指揮：松本和夫  
ピアノ：青木雅也

- I 小曲
- II 輪踊り
- III 人の言うことを信じるな
- IV 海よ
- V 秋の歌

堀口大 学 訳詩  
南 弘 明 作曲

## 3. 男声合唱のための組曲 「蛙の歌」

指揮：大塚正夫

- I 小曲
- II 亡霊
- III 鰻と蛙
- IV 蛇祭り行進
- V 秋の夜の会話

草野心平 作詩  
南 弘 明 作曲

## 4. 「ウエスタン・ノスタルジア」

指揮：柏木秀茂

- I Oh, Bury Me NOT 伴奏
- II Red River Valley コントラバス：玉置清明
- III The streets of Laredo アコーデオン：川津隆幸
- IV Poor Lonesome Cowboy メロディオン：加藤文昭
- V Cool Water ギター：市野修一
- VI Home on the Range

福永陽一郎 編

## 指揮者

### 松本和夫

国立音楽大学卒業。岡本敏明・西内静に師事。在学中、オペラ部公演「ドン・ジョヴァンニ」 「魔弾の射手」などに出演。

小田原男声合唱団創立以来技術部を担当。

以来、東京交響楽団小田原労音「第九」の合唱指揮など、各種音楽活動に参加している。東京リコーダー・ターフェル・ジョイントコンサートでの、リストの「レクイエム」のバリトンソロは、記憶に新しい。

現在、岡本中学校勤務。



### 大塚正夫

国立音楽大学卒業後、大磯小学校に赴任するや、同校合唱団を指揮し、NHK合唱コンクールでは常に県代表であり、昭和45年には最優秀校に選ばれている。TBSでも3度日本一を獲得。文部大臣賞を授賞するなど、広くその名を知られている。

小田原男声合唱団では当初より福永氏の片腕である。昨年大磯に合唱団を発足させ、第1回演奏会を行ったばかりである。小田原木曜会常任指揮者。合唱に賭ける情熱は果てしない。



### 柏木秀茂

東洋音楽大学（現東京音楽大学）声楽科卒業。声楽を内山ふみ子、指揮を篠原正雄に師事。

昭和33年から昭和43年まで、シブナス合唱団常任指揮者。昭和37年には、南足柄市の社会教育活動の一環として、南工コーラス（現南エコー）を創立し、常任指揮者として9年間指導。

現在、中井中学校教頭。同校のPTA成人教育のコールオニオンの指揮者 又小田原木曜会常任指揮者。

小田原男声合唱団創立以来、中心的団員として活躍している。

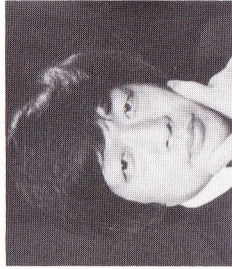


## 伴奏者

### 小沢一

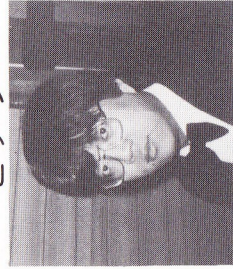
武蔵野音楽大学、同専攻科卒業。市田儀一郎、ジョン・ハント、マックス・エッガーに師事。

現在、昭和音楽大学、小田原女子短期大学、国立療養所箱根病院附属リハビリテーションシヨン学院などに勤務の傍ら、小田原男声合唱団では、B1のメンバーとしても活躍。



### 青木雅也

1982年桐朋学園大学ピアノ科卒業。現在、桐朋学園大学研究生、指揮科に在学中。ピアノを兼松雅子、指揮を紙谷一衛他、二重奏を三善晃他に師事。最近、地元での音楽活動にも積極的に参加しており、合唱団の伴奏者や指揮者としても活躍。



### コントラバス

玉置 清明

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。

現在、県立山北高校音楽科教諭、秦野市民交響楽団指揮者、秦野男声合唱団常任指揮者

### アコーデオン

川津 隆幸

国立音楽大学教育科卒業。

現在、東京リコーダー協会理事として、リコーダー、アコーデオンの指導と演奏で日本全国をまわっている。

### メロデイオン(鍵盤ハーモニカ)

加藤 文昭

日本大学芸術学部卒業。

現在、旭丘高校、足柄上青少年会館、井上楽器音楽講師として鍵盤楽器、管楽器を指導し、小田原木曜会合唱団、小田原リコーダー・コンサートでのメンバーでもある。

### ギター

市野 修一

元小田原男声合唱団団員。5月の東海メーブルワイヤー・ジョイントコンサートにギター伴奏者として出演。現在、富士フイルム勤務。

## 独唱

国立音楽大学卒業。第27回毎日コンクール声楽部門入

賞。現在、コール・めんどり、コール・キャロットの指導、指揮を担当している。本日は、夫妻協演である。



## ・ 男声合唱のための組曲

### 「蛙の歌」

草野心平(敬称略)は、よく「富士山の詩人」と言われる。おびただしい数の「富士山の詩」を書いているからである。そして、「富士山の詩人」よりもいつそう「蛙の詩人」である。草野心平の最初に出版された語集は「第百階級」という蛙の詩を集めたものであった。以後、とどまることなく蛙の詩を書きつづけ、数をかぞえることは困難である。というのも、草野心平はあるテーマの詩をまとめて本にし、次にテーマを変えてゆくという型の詩人ではないからで、蛙の詩にしても、いろいろの機会にまとまった数であったり、一編だけだったりという具合に、発表されてゆくからである。

草野心平において富士山は、現実の優美雄大な山容の、具体的な存在であるばかりでなく、「存在を越えた無限なもの」の象徴である。富士山が象徴である。富士山が象徴であるのと同時に、草野心平にとつて、蛙もまた、一種の象徴である。「第百階級」というのは、もともと下層のプロレタリアートとも言えるし、もともと知性と遠い生物とも考えられる。しかし、蛙の姿を借りて、人間社会をうつし出すというのではない。人間に蛙の姿をとらせるのではない。蛙そのものが客観的にとらえられ、ある種の原始的動物の形をとりながら、それ自身が成育して、本質的な脱皮をとり、人間と肩を並べるところの世界を現出するのである。蛙は、あくまでも蛙として、しかし、人間社会の象徴としても、まるで眼前に存在するかのように、現実性が確立するのである。

一般に草野心平の詩は音楽的であるが、とくに「蛙の詩」においては、操声音の連続がすでに音楽的なひびきを保全しており、それも集団をなしていることが多いから、合唱曲の台詞としてきわめて適切である。そういう理由もあって、「蛙の歌」というタイトルを持つ合唱曲は非常に多い。草野心平の心象風景は、多くの合唱団、合唱人の声をとおして、音楽的現象となるわけで、もともと音楽は、事物の象徴ないしは抽象的なものであるから、もともと円満な形で時間的に、そして目に見えない空間に おいても、ひとつの世界が完結する。

南弘明は、東京芸大の作曲科卒業であるが、この男声合唱のための組曲「蛙の歌」を作曲したのは、1955年の夏で、2年に在学中のことであった。作曲者にとつて、はじめての男声合唱曲であり、清水修の「月光とピエロ」の影響と思われる書法上の傾向が見られる。初演したのは、当時の芸大の声楽科の一年、二年の有志であったが、そのグループはこの組曲をレパートリーに加えて演奏旅行をしたので、出版(1964年)される前から、全国的にひろくうたわれていた。とくに、大学の男声合唱団にとつては、通常のレパートリーであった。

日本ビクターが「日本の合唱」というLP6枚のアンソロジーを組んだとき、当然、この南弘明の「蛙の歌」は、各曲のひとつとして企画の中に加えられ、木下保指揮の慶応ワグネル・ソサイエティによって実際に録音されたのだが、演奏状態が良好でなく、アルバムには加えられなかった。

最初の楽曲と最後の楽曲の和音の連続が、構造的にも和声学的にも同一で、ただ長調のものが短調になっただけ、というふうに作られており、曲組のそとわくの役割をはたしている。中の三曲は、いずれも男声合唱の機能を十分に生かしており、前述したとおり、清水修の、その当時までの作品に学んだ跡が見られるにしても、とうてい、初心者(男声合唱の書き手として)の作曲とは思えない・演奏者=合唱団が身近にいた

めに、制作課程で、実際にうたってみた上での改良の手が加えられたのであろう。

「七霊」と「蟻と蛙」では、擬声語である五十音列がたくみに生かされて、器楽的な外面と、うたう者自身にあたえる面白さをそなえた優秀な楽曲になっている。中間のアンダンテの部分は、日本の男声合唱のために書かれた、もつとも美しい哀愁を帯びたメロディに満たされている。

出版されたのは、作曲されてから十年も経過した後であったが、いくらか再版しても売れ切れとなり、この作品の人気のほどを語っている。

## ・ ウェスタン・ノスタルジア

アメリカの民謡の種類は、通常、フォスターの数々の名歌曲に代表される東海岸の素朴な歌。黒人霊歌。南東部、アパラチア山脈などの「マウンテン・ソング」。「シー・シヤンティ」。そして西部開拓史の発展と同時にひろまったカウボーイ・ソング。このように分けられる。そのどれかが、ルーツを深く追求すると、みな源泉をヨーロッパに持っていることが判明するが、しかし、その原型は、開拓時代のアメリカ人気質の趣味によって痕跡を留めないほど変貌を遂げている。

その最も典型的なもの、《ウェスターン》と呼ばれるカウボーイ・ソングである。荒涼とした大平原、幸せと安住の地を求めて西へ西へと当てもなく放浪する人生。そうした根無し草のような人々の間に、深いノスタルジーの刻まれた、寂しいが慰めのある、悲しいけれどもどこか陽気な歌の数々が、広い範囲にわたってうたい継がれていった。その素朴なメロディに染み込みだすと恐ろしいが、今もなお、聞く人の心を打つ。

《寂しい荒野に私を埋めてくれるな》は、死の床に就いている男のつぶやきであるが、その「荒野」は埃やコヨーテの遠吠えがきこえ、風が吹き荒れる西の空の彼方、とてつもなく静かに語られている。《赤い河の谷》は、別れてゆく友だちへの送別の歌である。去ってゆく友の輝いた眼と甘い笑顔、このあたりをしばしば明るく照らした太陽にたとえ、別れてゆくのを止められないが、君のことを恋しくしているカウボーイが、この赤い河の谷で待っていることを忘れてくれるな……とうたっている。《ラレド街の道》は死ぬ間際の男の遺言、手遅れになる前に余り遠く西へ西へさすらな、と忠告する。《寂れた孤独のカウボーイ》は一人の身寄りも無い身のうえを嘆き、《冷たい水》は自身共に湯きを訴える。それでも《峠の我が家》は懐かしい。

シュペールト男声合唱曲の「曇と月」の解説は、今年、5月に名古屋で行われた、小田原男声合唱団・東海メールクワイヤー、ジョイントコンサートのパンフレットより、東海メールクワイヤー都築義高氏の文を引用しました。

## 調律は年1回必要

当社の技術におまかせ下さい。

国立音楽大学指定工場



アトラスピアノ 特約店

デアロソソピアノ 特約店

無人演奏システム/ピアノコーナー特約店

ピアノ・電子オルガン販売・下取・調律・修理

銀行ローンクレジットも御利用頂けます

弾くだけのピアノから聴くピアノへ……

# ピアノコーナー

調律修理専門店

## ツノ・ピアノ社

TEL. 0465-42-2864

〒250-02 小田原市下大井102-1

GRAB UND MOND

墓と月 D.893

Silberblauer Mondenschein  
fällt herab,  
senkt so manchen  
Strahl hinein  
in das Grab.  
Freund des Schlummers,  
lieber Mond,  
schweige nicht,  
ob im Grabe Dunkel wohnt  
oder Licht.

銀色に青い月の光が  
さしてきて  
あふれんばかりに  
光をおとす  
墓の中へと  
愛しい月よ  
黙っていてはいけな  
墓の中にいるのは誰か  
それとも光なのか。

Alles stumm?

全てが物言わないのか?

DER op.28  
GONDELFAHRER

ゴンドラをこぐ人  
D.809(Op.28)

Es tanzen Mond und Sterne  
den flüchtigen Geisterreih'n,  
wer wird von Erdensorgen  
befangen immer sein?

月と星が踊っている  
はかない列を、  
誰かがこの世の苦労に  
とらわれているのだろうか?

Du kannst in Mondesstrahlen  
nun, meine Banke,  
wollen  
und aller  
Schranken los  
wiegt dich des Meeres Schoss.

あなたは月の光の中に  
いま、ほくの小舟を  
翻えすことができる  
そして、あらゆる束縛を  
解きはなつて  
海のふところがあるあなたを揺る。

STÄNDCHEN

小夜曲  
D.920(Op.post.135)

Zögernd, leise, in des  
Dunkels nächst'ger Hülle  
sind wir hier,  
Und den Finger sanft  
gekürmelt, leise,  
leise pochen wir an des  
Liebchens Kammertür.

ためらいつつ、そつと、  
夜の闇につつまれ  
私たちはここに  
私たちがここに  
そして、指をやさしく曲げて、  
そつと  
そつとといしい人の戸をたたく。

Doch nun steigend,  
schwellend, bebend,  
mit vereinter Stimmlaut,  
rufen aus wir hoch vertraut:  
schlaf du nicht, wenn der  
Neigung Stimme spricht.

しかしいま、声を高くし、  
ふるわせながら  
一つに合わせて、はつきりと  
高く親しげに叫ぶのだ:  
眠らないで、  
慕う声が語っているときには、と。

Suetein Weiser nah und ferne  
Menschen einst mit der Laterne,  
wie viel selthner dann als Gold  
Menschen uns geneigt und hold.

かつて案内人はここがしたこと  
ランプの手にシタを探した、  
そのとき、  
私たちに親切でやさしい人は  
黄金よりも  
どれほど稀だったことだろう。

(September 1826)  
für Männerchor a capella  
Text von Johann Gabriel Seidl  
Langsam(vierstimmig)

Nun stilles Grab,  
rede du,  
zogst so manchen Strahl hinab,  
in die Ruh'.  
bingst gar manchen Mondenblick,  
silberblau,  
gib nur einen Strahl zurück!  
Komm' und schau'!

さあ、静かな墓よ、  
お前が語れ  
お前はそなたに多くの光を  
安らぎの中へひき入れたのだ。  
お前は月の輝きさえ隠した、  
銀色に青い、  
一すじの光だけは返せ  
来なれ、そして見よ!

(März 1824)  
für Männerchor und Klavier  
Text von Johann Mayrhofer  
Andante con moto(vierstimmig)

Vom Markturme tönte  
der Spruch der Mitternacht;  
sie schlummern friedlich alle,  
und nur der Schiffer wacht.

サン・マルコの寺院の塔から  
真夜中の鐘がひびき、  
みな穏やかに眠っている。  
そして 舟乗りだけが起きています。

Erste Fassung(Juli 1827)  
für Altisol.Männerchor und Klavier  
Text von Franz Grillparzer  
Andante(fünftimmig)

drum wenn Freundschaft,  
Liebe spricht,  
schlaf du nicht,  
wenn Liebe spricht,  
Freundin, Liebchen,  
schlaf du nicht.

だから友情と愛が語るときには、  
眠らないで、  
愛が語るときには、  
段よ、恋人よ、  
眠らないで。

Aber was in allen Reichen  
wär dem Schlummer  
zu vergleichen?  
Drum statt  
Worten und statt Gaben  
solst du nun auch Ruhe haben,

しかし、あらゆる富の中で  
まどろみに比べられる  
ものがあまるだろうか?  
だから言葉や贈物の代りに  
君はいま休ましなければ  
ならないのだ。

noch ein Grusschen,  
noch ein Wort,  
es verstümmt die frohe Weise  
leise, leise schleichen wir,  
ja schleichen  
wir uns wieder fort.

もう少し挨拶して、  
もう少し話して、  
楽しい歌が消えると、  
そつと、そつと私たちは去って  
行く、そう 再び彼方へと  
去って行くのだ。



井上楽器音楽教室

生徒募集

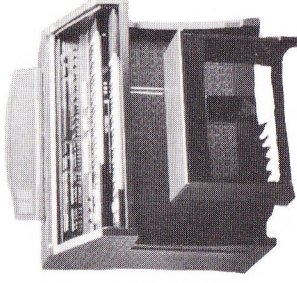
リトミック科・ビクトロン科・ピアノ科・フルート科  
クラリネット科・トランペット科・アコーディオン科

電子オルガン・ビクトロン

ビクター伝統の音と  
先進技術がさらに  
弾くことを面白くした。

小田原お堀端通り

T E L . 24—0515





# 蛙の歌

草野心平

## I. 小曲

月のおもてを雪がふり。  
まんまるい。

にびいろ緋の雪がふり。

土のなには。

何万の。

眠ってるだろう。

蛙の眼。

そのいくつかは見開いて。

光ってもいる。

蛙の眼。

月はいつしかうす暗く。

幽霊よりもうす暗く。

しんしん。

しんしん

いまはなんにも見えないよ。

## II. 亡霊

蛇めがおれの口に喰われおるわ。

みみずのように喰われおるわ。

つめたくぬるぬるしておいしいわ。

わりわり わい

らりらら らりらら

踊れるわ。踊れるわ。

脚が生えおるわ。

五本。六本。九本。十本。

わりわり わい

らりらら らりらら

うふふつ。蛇めらが逃げおるわ。

畔から。畔から。田ん圃から、畔から。

逃げおるわ。逃げおるわ。

さあみんな集りなされ。

たんぼほにすかんぼに火をつけなされ。

田のお祭りだ。万歳祭りだ。

わりわり わい

らりらら らりらら

青紫の。毒菜色の。

空が。田ん圃が。

ぐるぐるぐるぐる。

レンズになって廻りおるわ廻りおるわ。

## III. 鰻と蛙

カクケケコ

カクケケコ

ラリルレロ

ガッガッガ

ガッガッガ

なあんだ。

鰻だ。

鰻が

とおるんだ。

カクケケコ

カクケケコ

ラリルレロ

ガッガッガ

ガッガッガ

## IV. 蛇祭り行進

びるるるるるる

はっはっはっはっ

ふっふっふっふっ

後足だけで歩きだした数万の蛙。  
篠竹に青大将をつきざしたゲリゲを先頭に。

渦巻石鹼の◎のように

だいいりんを描いて行進する。

びるるるるるる

はっはっはっはっ

ふっふっふっふっ

おうい歩調をあわせろうい。

おういもつとその篠を高くあげろうい。

どの口からもどの口からも

壺がしゅっしゅっ流れでるのだ。

びるるるるるる

はっはっはっはっ

ふっふっふっふっ

まっ暗闇の青たんぼを。

煙草の輪のようにゆらゆらして。

螢たちが渦巻のまんまであがってゆく。

びるるるるるる

はっはっはっはっ

ふっふっふっふっ

行進曲は埋葬曲。

心はあかるいお祭り提灯。

そよかぜは絹のうすもの。

星畑は花菱。

ろんど。

ろんど。

びるるるるるる

はっはっはっはっ

ふっふっふっふっ

## V. 秋の夜の会話

さむいね。

ああさむいね。

虫がなっているね。

ああ虫がなっているね。

もうすぐ土の中だね。

土の中はいやだね。

痩せたね。

君もすいぶん痩せたね。

どこがごんなに切ないんだろうね。

腹だろうかね。

腹とっただら死ぬだろうね。

死にたかあかないね。



# お食事とコーヒー 送亭

お堀端通り

小田原市栄町 1-13-31

TEL 23-3631

1984~1985オダダンカレンダー

1984~1985演奏曲目

年月日	演奏会名	場所	作曲者	曲目
84.9.9(日)	中央公民館 フェスティバル	中央公民館	清水 修	月光とピエロ
9.22(日)	小田原木曜会定演 賛助出演	小田原市民会館	Beethoven	合唱幻想曲
10.14(日)	第19回小田原市民合唱祭	小田原市民会館	Casals	NIGRA SUM
11.18(日)	小田フイル「第九」演奏会	小田原市民会館	南 弘 明	月下の一群
12.23(日)	藤沢「第九」演奏会	藤沢市民会館	南 弘 明	蛙の歌
84.1.8(木)	New Year 団内コンサート	井上楽器ホール	福永陽一郎編	WESTERN NOSTALGIA
5.12(日)	東海メールクワイアー シヨイントコンサート	愛知文化講堂	中村 八大	遠くへ行きたい
6.2(日)	湘南合唱祭	小田原市民会館	山田 耕作	からたちの花
6.22(土) ~ 23(日)	夏季合宿	箱根 仙石原		
7.13(日)	第14回 定期演奏会	小田原市民会館		

あなたも仲間になりませんか?  
16才以上の男性へ  
貴兄もすぐオダダンに

指揮者 福永陽一郎  
練習日 毎週火曜日 PM.7時~9時  
練習場 小田原市立城内小学校  
事務局長 井上 楽器  
TEL 0465 (24) 0515

画廊のある店

学生 専科  
紳士 マルク

国際通り 本店 小田原市本町2-4-23 ☎22-4185(代)  
栢 山 支店 小田原市曾比1718 ☎36-5631



◇音楽と仲よしになれる、新しいカタチ、新しい音。

**XROTEIOT**  
**A-32**

株式会社 鈴木楽器製作所  
浜松市漁家町443 TEL (0534)-61-2325(代表) 千430  
**鈴木楽器販売株式会社**  
横浜 市緑区 荏田町1856-8 横浜 (045)911-1916

# MEÑ(M)BERS

T 1

大塚正夫  
吉田晃司  
齋藤恵達  
日置達  
加藤兀  
西山廣木  
高橋幸代  
大石弘敬  
中島光節  
長谷川幸雄



B 1

足利裕之  
柏下秀茂  
松本興和  
小沢治  
二宮広  
中島光  
奥津守  
広田雅  
青木明  
鉅鹿清  
伊東邦  
古沢憲



T 2

青野純  
石橋正  
福泰  
藤井靖  
氏本慎  
鈴家慶  
井木幸  
小筒三  
伊野稔  
鈴東豊  
佐不昌  
藤精  
弘孝



B 2

井上彦  
坂口宗  
渡辺誠  
下沢博  
日下部凱  
中山博  
江藤康  
石塚三  
秋野雅  
福野秀  
山神敏  
桑原人  
桑原雄



## 第14回定演スタッフ

実行委員長 日置達男 事務局 井上忠彦 印刷 小野豊 プログラム 伊東康宏 デザイン 福野雅典 技術 福井靖史  
ステマネ 坂口新治 合宿 中山博之 会計 広田守邦 フロント 福島修

### 小田原男声合唱団スタッフ

常任指揮者 福永陽一郎 副指揮者 松本和夫・柏本秀茂・大塚正夫 団長 日下部陽 副団長・技術部長 福井靖史 副団  
長・財政部長 渡辺誠之 副団長・団員部長 中山博之 事務局長 井上忠彦 事業部長 日置達男 渉外部長 下村興毅 備  
品部長 加藤兀 情報部長 鈴木幸三 監査 足利裕之・坂口宗夫

# 「人生80年時代」に向けて。

—— ビタミンEが求められる時代です ——

- 末梢血行障害による手足の冷え・しびれに
- 更年期における肩こり、頭痛、不眠に

からだを動かしましょう。筋肉を使いましょう。  
運動は血のめぐりをよくし、凝りやこわばり、  
冷え、しびれなどの症状をやわらげます。植物  
油中から抽出した天然型ビタミンE剤「ユベラッ  
クス」も血のめぐりをよくして、不快な症状を  
緩和します。

天然型ビタミンE剤  
**ユベラックス**



エーザイ株式会社

〒112 東京都文京区小石川 4-6-10

# 小田男ニュース

特集号

1985.7.13

## 近づぐく創立15周年!!

“これからの活動に期待”

### 小田原男声合唱団

#### 出演演奏会予定表

1985.10~1986.9.

10/13 SUN	小田原市民合唱祭 (小田原)
11/3・4・9・10 SUN・MON・SAT・SUN	オペラ “アイーダ” (藤 沢)
12/13 SAT	クリスマス・ コンサート (小田原)
3/16 SUN	第2回 東京リーダー・フエル ジョイントコンサート (東 京)
5/18 SUN	第8回 日本男声合唱協会 (JAMCA) 演奏会 (広 島)
7/12 SAT	第15回 記念定期演奏会 (小田原)
9/15 MON	福永陽一郎 還暦コンサート (東 京)

※詳しくは小田男事務局(井上楽器)まで

小田原男声合唱団の定期演奏会以後の予定が決定しましたので、お知らせします。今後とも“小田男”に御期待を！

昭和44年12月、小田原に男声合唱団を、この初代会がもたれ、昭和46年11月2日に城内小学校講堂で産声をあげてから、来年11月に創立15周年を迎える。

すでに、来年度の予定も決定しており、“小田男”は15周年におけて、動きだしたところである。

小田原男声合唱団は、創立以来、関東合唱コンクール金賞受賞により、わずかに一年で全国コンクール出場、翌年には全国で銅賞の受賞

や、JAMCA(日本男声合唱協会)演奏会は名古屋・広島・弘前・小田原・東京と続き、昨年名古屋での二度目の演奏会に出演。雨、のレコーディング、新星期日本文藝楽団との共演など、今まで健実に歩んできた。吾が団は、団の向上はもとより、地域の音楽団体とのつながりを大切に、合唱音楽の追求とその楽しさを深めていけるように、今後も活動していく。

### がんばれ小田男!

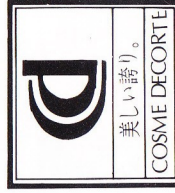
- 協賛団体——
- ・日本レジャー株式会社
  - ・日本シエーリング株式会社
  - ・東京田辺製薬株式会社
  - ・鳥居薬品株式会社
  - ・株式会社辰医協
  - ・モハン薬品工業株式会社

より美しくより健康に

オリースマン化粧品  
KOSE cosmetics

SHISEIDO

LANCÔME  
PARIS



# 伊東屋

錦通り店 TEL (22)2602  
ダイヤ街店 (22)3508